

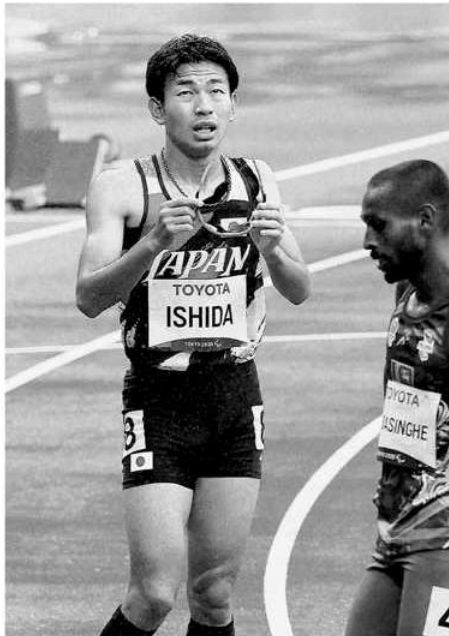
大舞台 家族が後押し

東京パラリンピックに初出場した石田駆選手(三三)＝愛知学院大四年、岐阜県各務原市＝は、三日の陸上男子400メートル(上肢障害T47)で予選敗退した。大病を患った息子の努力を見守ってきた父の正美さん(五三)は「胸を張って岐阜に帰ってきてほしい」と優しい声で話した。

中学で陸上競技を始め、中学と高校で全国大会に出た石田選手。大学に入学した二〇一八年春、左肩の骨肉腫が判明し「もう陸上ができなくなるかも」と落ち込んだ。人工関節の手術を受けた息子に、正美さんは「親として力になれないか」と東京パラリンピック出場の可能性を調べ始めた。

パラ陸上の競技団体に聞

陸上・石田 父が初出場導く



①陸上男子400メートル予選 全体10位で決勝進出を逃した石田駆選手＝国立競技場で
②ホームページも作って石田選手を応援してきた父の正美さん＝岐阜市内で



くと、退院直後の九月に香川県でパラ陸上の大会がある。「四国へドライブに行かないか」と観戦に誘った。息子は積極的ではなかったが、「後から『やっておけば良かった』という思いだけはさせたくなかった。実感、パラリンピックを目

今回の大会前半には10

(長屋文太)

「病気をチャンスに」感謝

指す決意を固めた。

七月の大会では100メートル400メートルで日本記録を更新し、十一月の世界選手権では400メートルで五位に入賞。その後、出場を射止める人間、競技者になっしてほしい」と話した。

0位で五位入賞した石田選手。名前に込められた願い通り、夢の舞台を駆け抜けた。「病気をチャンスにするきっかけを与えてくれた」と父に感謝。正美さんは「本人にしかできない貴重な経験をしたと思う。いろいろな形でそれを生かせる人間、競技者になっほしい」と話した。